



CAR システムの設定

CAR を使用してレポートの生成を開始する前に、システムを設定する必要があります。CAR では、ほとんどの値にデフォルト値が提供されていますが、この章で提供しているトピックを確認して、CAR のカスタマイズについて詳しく知っておいてください。

この章は次の内容で構成されています。

- [システム パラメータの設定 \(P.3-2\)](#)
- [システム スケジューラの設定 \(P.3-8\)](#)
- [システム データベースの設定 \(P.3-14\)](#)
- [システム ログ画面 \(P.3-17\)](#)
- [関連トピック \(P.3-19\)](#)

システムパラメータの設定

デフォルト値を使用する必要が特にない場合は、レポートを生成する前に、数多くのシステムパラメータをカスタマイズする必要があります。この項では、システムパラメータについて説明します。シスコではカスタマイズすることを推奨していますが、すべてのシステムパラメータにデフォルト値が用意されているため、カスタマイズは必須ではありません。

この項では、次のトピックを取り上げます。

- [メールサーバのパラメータの設定 \(P.3-2\)](#)
- [ダイヤルプランの設定 \(P.3-3\)](#)
- [CAR ダイヤルプランのデフォルト値の復元 \(P.3-4\)](#)
- [ゲートウェイの設定 \(P.3-5\)](#)
- [システム設定値の設定 \(P.3-7\)](#)

メールサーバのパラメータの設定

電子メール警告とレポートを電子メールで送信するには、メールサーバの構成情報を指定する必要があります。CAR は、構成情報を使用して電子メールサーバに正常に接続します。

この項では、電子メールサーバの情報を指定する方法について説明します。

手順

ステップ 1 **System** > **System Parameters** > **Mail Parameters** を選択します。

Mail Parameters ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 Mail ID フィールドに、電子メール送信時に From フィールドで使用される電子メール ID を入力します。

ステップ 3 Password フィールドに、電子メールシステムが動作しているサーバにアクセスするためのパスワードを入力します。



(注) CAR では、ユーザ ID とパスワードを認証しません。メールサーバ上で認証をディセーブルにするか、有効なユーザ ID とパスワードを入力する必要があります。

ステップ 4 Confirm Password フィールドに、[ステップ 3](#) と同じパスワードを確認のために入力します。

ステップ 5 Mail Domain フィールドに、電子メールシステムが動作しているサーバのドメイン名を入力します。

ステップ 6 Mail Server Name フィールドに、電子メールシステムが動作しているサーバの名前または IP アドレスを入力します。

ステップ 7 変更を適用するために、**Update** ボタンをクリックします。

追加情報

[P.3-19](#) の「[関連トピック](#)」を参照してください。

ダイヤルプランの設定

CAR のデフォルトダイヤルプランは、北米番号計画 (NANP) です。コールの分類がレポート内で正しく表示されるようにするには、ダイヤルプランが適切に設定されていることを確認します。



(注)

Cisco Unified CallManager の管理ページのデフォルトである NANP を変更した場合や、NANP の範囲外にいる場合は、Cisco Unified CallManager のダイヤルプランに従って、CAR でダイヤルプランを設定する必要があります。ダイヤルプランを設定するには、条件が少なくとも 1 つ存在する必要があります。ダイヤルプランについては、『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』および『Cisco Unified CallManager システムガイド』を参照してください。

ダイヤルプランを設定するには、発信コールを分類するためのパラメータを定義します。コールの分類には、国際、ローカル、長距離、オンネットなどがあります。たとえば、現在の地域の市内電話番号の長さが 6 桁である場合は、ダイヤルプランの行に次のように指定します。

Condition	No of Digits	Pattern	Call Type
=	6	!	Local

この項では、CAR のダイヤルプランの設定を更新する方法について説明します。

手順

ステップ 1 System > System Parameters > Dial Plan Configuration を選択します。

Dial Plan Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 Toll Free Numbers フィールドに、ダイヤルプランに含まれる、無料で発信できる番号を入力します。

ステップ 3 次のフィールドを使用して、表に含まれている値を更新します。

- **Condition** : ルールの条件を選択します。No of Digits フィールドに指定した値に対して、> は大きいこと、< は小さいこと、= は等しいことを表します。
- **No Of Digits** : このルールの適用対象となる電話番号の桁数を選択します。桁数がルールと無関係である場合は、NA と指定します。
- **Pattern** : コール分類に使用される、次のパターンを入力します。
 - G : ルールで指定されているとおりに分類されることを表します (G は、P3-5 の「[ゲートウェイの設定](#)」で指定するゲートウェイエリアコードのワイルドカードと同等です)。
 - T : CAR に設定されているフリーダイヤル番号を取得します。
 - ! : 複数の桁がある (1234 や 5551234 など、番号の長さが 1 より大きい) ことを表します。
 - X : 1 桁の番号を表します (0、1、9 など)。
- **Call Type** : 条件を満たしている場合のコールタイプを選択します。

ステップ 4 行をさらに追加するには、行を追加する場所の下にある行のチェックボックスをオンにし、**Add Rows** をクリックします。選択した行の上に、行が追加されます。行を削除するには、削除する行のチェックボックスをオンにして、**Delete Rows** リンクをクリックします。



(注) CAR では、ダイヤルされる番号を基準にしてコールを分類し、CDR に格納します。ダイヤルされる番号が（番号変換が原因で）CDR に書き込まれる番号と異なる場合は、CAR でダイヤルプランを設定するときに、番号が CDR にどのように記録されるかを基準にする必要があります。

ステップ 5 変更を適用するために、**Update** ボタンをクリックします。

追加情報

P.3-19 の「関連トピック」を参照してください。

CAR ダイヤルプランのデフォルト値の復元

デフォルトのダイヤルプランに CAR で変更を加えた場合は、北米番号計画（NANP）に基づいたデフォルト値に戻すことができます。

表 3-1 に、デフォルトの NANP の値を示します。

表 3-1 CAR ダイヤルプランのデフォルト値

Condition	No of Digits	Pattern	Call Type
=	5	!	OnNet
=	7	!	Local
=	10	T!	Others
=	10	G!	Local
=	10	!	Long Distance
=	11	T!	Others
=	11	XG!	Local
=	11	!	Long Distance
>	3	011!	International

次に、表 3-1 の表にあるデフォルト値の説明を示します。

- 1 行目：ダイヤルされた桁数が 5 でパターンが ! (1 桁以上の数字、この場合は 5 桁の数字) である場合、コールは OnNet (オンネット) として分類されます。
- 2 行目：ダイヤルされた桁数が 7 でパターンが ! (1 桁以上の数字、この場合は 7 桁の数字) である場合、コールは Local (ローカル) として分類されます。
- 3 行目：ダイヤルされた桁数が 10 でパターンが T! (1 桁以上の数字、この場合は、フリーダイヤル番号コードで始まる 10 桁の数字) である場合、コールは Others (その他) として分類されます。
- 4 行目：ダイヤルされた桁数が 10 でパターンが G! (1 桁以上の数字、この場合は、ゲートウェイコードで始まる 10 桁の数字) である場合、コールは Local (ローカル) として分類されます。
- 5 行目：ダイヤルされた桁数が 10 でパターンが ! (1 桁以上の数字、この場合は 10 桁の数字) である場合、コールは Long Distance (長距離) として分類されます。(1 桁以上の数字、この場合は 10 桁の数字)、コールは Long Distance (長距離) として分類されます。

- 6行目：ダイヤルされた桁数が11でパターンがT! (1桁以上の数字、この場合は、フリーダイヤル番号コードで始まる11桁の数字)である場合、コールはOthers (その他)として分類されます。
- 7行目：ダイヤルされた桁数が11でパターンがXG! (1桁以上の数字、この場合は、1つの数字とそれに続くゲートウェイコードで始まる11桁の数字)である場合、コールはLocal (ローカル)として分類されます。
- 8行目：ダイヤルされた桁数が11でパターンが! (1桁以上の数字、この場合は11桁の数字)である場合、コールはLong Distance (長距離)として分類されます。(1桁以上の数字、この場合は11桁の数字)、コールはLong Distance (長距離)として分類されます。
- 9行目：ダイヤルされた桁数が3より大きく、011で始まる場合、コールはInternational (国際)として分類されます。

これらの条件を1つも満たしていない場合、コールはOthers (その他)として分類されます。この項では、CARでNANPダイヤルプランの値を復元する方法について説明します。

手順

ステップ1 System > System Parameters > Dial Plan Configuration を選択します。

Dial Plan Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ2 Restore Defaults ボタンをクリックします。

復元内容は、午前0時に有効になります。変更内容をすぐに有効にするには、Cisco CAR Scheduler サービスを再起動します。サービスの再起動については、『Cisco Unified CallManager Serviceably アドミニストレーションガイド』を参照してください。

追加情報

P.3-19の「関連トピック」を参照してください。

ゲートウェイの設定



ヒント

Cisco Unified CallManager システムの既存ゲートウェイについて、CARでゲートウェイを設定します。また、ゲートウェイをCisco Unified CallManagerの管理ページに追加した場合は、その新しいゲートウェイをCARで設定します。ゲートウェイをCisco Unified CallManagerシステムから削除した場合、それらのゲートウェイ (および指定した設定値) は、CARから自動的に削除されます。

CARはエリアコード情報を使用して、コールがローカルか長距離かを判別します。CARが使用状況レポートを生成するために使用できる各ゲートウェイのポート数の情報を提供する必要があります。



(注)

「G」は、ダイヤルプランの設定で 사용되는ゲートウェイエリアコードのワイルドカードとして機能します。

この項では、CAR でゲートウェイを設定する方法について説明します。

手順

ステップ 1 **System > System Parameters > Gateway Configuration** を選択します。

Gateway Configuration ウィンドウが表示されます。



(注) Cisco Unified CallManager の管理ページでゲートウェイを設定していない場合は、システム用のゲートウェイを設定していないことを示すメッセージが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかを実行します。

- すべてのゲートウェイのエリア コードを更新するには、**Area Code** フィールドにエリア コードを入力し、**Set Area Code** ボタンをクリックします。
変更内容を保存するには **Update** をクリックする必要があることを示すメッセージが表示されます。**OK** をクリックします。
- 特定のゲートウェイ エリア コードを更新するには、設定する各ゲートウェイのエリア コードのフィールドに、そのゲートウェイのエリア コードを入力します。

ステップ 3 **Max No. of Ports** フィールドに、設定する各ゲートウェイのポートの数を入力します。**Max No of Ports** の範囲は、1 ~ 1000 です。



(注) Cisco Unified CallManager の管理ページでゲートウェイを追加したときに、当該ゲートウェイについて指定した値が CAR で使用されます。したがって、ゲートウェイを Cisco Unified CallManager の管理ページで追加したときに指定した詳細情報によっては、ゲートウェイにすでにエリア コードが設定されている場合や、最大ポート数に 0 が設定されている場合があります。CAR では、0 は最大ポート数の値として許容されません。値 0 が指定されているすべてのゲートウェイについて、最大ポート数を変更するように求められます。

ステップ 4 変更を適用するために、**Update** ボタンをクリックします。

CAR では、設定済みの任意の（すべての）ゲートウェイを対象としてレポートを実行できます。

追加情報

P.3-19 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

システム設定値の設定

CAR ではデフォルトのシステム設定値が提供されていますが、システムパラメータの値を指定することで、システムをカスタマイズできます。

この項では、システムパラメータの値を指定する方法について説明します。

手順

ステップ 1 System > System Parameters > System Preferences を選択します。

System Preferences ウィンドウが表示されます。Parameter Name リストに、使用可能なシステムパラメータのリストが表示されます。

ステップ 2 Parameter Value フィールドに、表 3-2 の説明に従って適切な値を入力します。

表 3-2 システム設定のパラメータ

パラメータ	説明
COMPANY_NAME	レポートのヘッダー情報として使用される会社名を入力します。

ステップ 3 Update ボタンをクリックします。

システム スケジューラの設定

CAR のシステム スケジューラは、次の機能を提供します。

- CDR の日時スケジュールをロードする。
- CDR の日時スケジュールをディセーブルにする。
- 日報をスケジューリングする。
- 週報をスケジューリングする。
- 月次報告をスケジューリングする。



(注)

CDR データをロードしているときは、Cisco Unified CallManager サーバのパフォーマンスが低下する場合があります。デフォルトのロード時刻を使用するか、Cisco Unified CallManager のパフォーマンスへの影響が最小限で済む時間帯にロードの実行をスケジューリングすることをお勧めします。

追加情報

P.3-19 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

CDR のロード スケジュールの設定

デフォルトでは、CDR データは毎日午前 0 時～5 時にロードされます。この項では、ロードのスケジュールをカスタマイズする方法、カスタマイズした場合にデフォルトのロードスケジュールに戻す方法、および CDR のロードをディセーブルにする方法について説明します。

CDR のロードをディセーブルにするのは、通常は CDR のロードが発生している営業時間外の時間帯に、システムのインストールやアップグレードを実施しようとする場合です。CDR をロードすると Cisco Unified CallManager のリソースが減少するため、他の操作が完了するまで、CDR のロードを一時的に停止することができます。CDR のロードをディセーブルにすると、CDR データが更新されない状態になります。できる限り早く CDR のロードを再開するようにしてください。CAR ツールは、Cisco Unified CallManager での CDR の生成には影響を及ぼしません。



ヒント

手動で CAR データを削除し、データベースに CDR をリロードするには、P.3-14 の「[手動での CAR データベースの消去とリロード](#)」を参照してください。

手順

ステップ 1 System > Scheduler > CDR Load を選択します。

CDR Load ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次の手順のいずれかを実行します。

- デフォルトのロード スケジュールを復元して、CDR データが毎日午前 0 時～5 時にロードされるようにするには、**Restore Defaults** ボタンをクリックします。
変更内容は、午前 0 時に有効になります。変更内容をすぐに有効にするには、Control Center - Feature Services ウィンドウで Cisco CAR Scheduler サービスを一旦停止し再起動します。

- CDR データのロードをディセーブルにするには、**Disable Loader** チェックボックスをオンにし、**Update** ボタンをクリックします。
CDR のロードをイネーブルにするまで、CDR データが CAR にロードされなくなります。変更内容は、午前 0 時に有効になります。CAR Scheduler サービスを一旦停止し再起動すると、変更内容をすぐに有効にすることができます。
- CDR データのロードをイネーブルにするには、**Disable Loader** チェックボックスをオフにし、**ステップ 3** に進んでロードのパラメータを設定します。

ステップ 3 Load CDR & CMR 領域で、[表 3-3](#) の説明に従ってフィールドの値を入力します。

表 3-3 Load CDR & CMR の値

フィールド	値
Time	CDR フラットファイルからの CDR データのロードを CAR が開始する時刻を選択します。
Loading Interval	レコードをロードする間隔を選択します。間隔の範囲は、15 分ごと～24 時間ごとです。
Duration	CDR データをロードする期間の長さを、分単位で入力します。CDR フラットファイルのサイズによっては、CDR をロードしているときに CAR のパフォーマンスが低下する場合があります。ロードを許可する期間は限定できますが、限定した場合、設定した期間では CDR データが一部しかロードされない可能性があります。設定する期間制限値は、必ず実行間隔に合わせて調整してください。たとえば、CDR データを 15 分ごとにロードする場合は、ロード期間が 15 分を超えることはできません。

無制約ロードを使用すると、CDR データを持続的にロードする時間帯を設定できます。これは、指定した時間帯に CDR データが自動的にロードされるわけではありません。指定した時間帯に CDR データの無制約ロードが実行されるのは、Load CDR & CMR 領域の設定値に従って、当該の時間帯にロードが開始された場合のみです。このため、無制約ロードの時間帯にロードが開始された場合、ロードは無制約ロードの時間帯が終了するまで継続し、さらに Load CDR & CMR 領域の duration フィールドで設定した期間が終了するまで継続します。

無制約ロードは、スケジュール付きのロードで設定されたどの値よりも優先されます。CDR データの無制約ロードを実行しない場合は、From と To の値を 00:00 に設定します。

ステップ 4 Uninhibited Loading of CDR 領域で、[表 3-4](#) の説明に従って次のフィールドの値を入力します。

表 3-4 Uninhibited Loading of CDR の値

フィールド	値
From	CDR データの継続的ロードを開始する時刻（時間と分）を選択します。
To	CDR データの継続的ロードを終了する時刻（時間と分）を選択します。

ステップ 5 **Update** ボタンをクリックします。

指定した時刻、間隔、および期間に基づいて、CDR データがロードされるようになります。変更内容は、午前 0 時に有効になります。CAR Scheduler サービスを一旦停止し再起動すると、変更内容をすぐに有効にすることができます。

追加情報

[P.3-19 の「関連トピック」](#) を参照してください。

日報のスケジューリング

日報スケジューラでは、CAR 日報の実行時刻と保管期間をスケジューリングします。



(注)

レポートの生成により Cisco Unified CallManager のパフォーマンスが低下することがあります。パフォーマンスへの影響が最小となる時間帯にレポートの生成をスケジュールしてください。

始める前に

Automatic Generation/Alert Option を使用して生成するレポートを指定します。詳細については、P.4-8 の「レポートの自動生成と警告の設定」を参照してください。

この項では、自動日報の実行時刻と保管期間をスケジューリングする方法について説明します。

手順

ステップ 1 System > Scheduler > Daily を選択します。

Daily Scheduler ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 Time ドロップダウン リスト ボックスから、日報を生成する時刻（時間と分）を選択します。

24 時間制で時間を表わします。つまり、0 は午前 0 時、1 ~ 11 は午前の該当する時間、12 ~ 23 は午後 1 時から 11 時までをそれぞれ示しています。

ステップ 3 Life ドロップダウン リスト ボックスから、レポートの保管期間を 0 ~ 12 日の範囲で選択します。



ヒント

レポートの保管期間を 00 に設定すると、レポートは生成されません。

ステップ 4 Update ボタンをクリックします。

Automatic Generation/Alert Option で生成間隔を Daily に設定し、イネーブルにしたレポートは、毎日指定した時刻に自動的に生成され、指定した日数が経過すると削除されます。

変更内容は、午前 0 時に有効になります。CAR Scheduler サービスを一旦停止し再起動すると、変更内容をすぐに有効にすることができます。



ヒント

デフォルト値に戻すには、Restore Defaults ボタンをクリックします。デフォルトでは、日報は毎日午前 1 時に実行され、2 日後に消去されます。

追加情報

P.3-19 の「関連トピック」を参照してください。

週報のスケジューリング

週報スケジューラでは、自動週報の実行日時と保管期間をスケジューリングします。



(注)

レポートの生成により Cisco Unified CallManager のパフォーマンスが低下することがあります。パフォーマンスへの影響が最小となる時間帯にレポートの生成をスケジュールしてください。

始める前に

Automatic Generation/Alert Option を使用して、生成するレポートを指定します。詳細については、P.4-8 の「レポートの自動生成と警告の設定」を参照してください。

この項では、自動週報の実行日時と保管期間をスケジューリングする方法について説明します。

手順

ステップ 1 System > Scheduler > Weekly を選択します。

Weekly Scheduler ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 Day of Week ドロップダウン リスト ボックスから、レポートを生成する曜日を選択します。

ステップ 3 Time ドロップダウン リスト ボックスから、レポートを生成する時刻（時間と分）を選択します。

24 時間制で時間を表わします。つまり、0 は午前 0 時、1 ~ 11 は午前の該当する時間、12 ~ 23 は午後 1 時から 11 時までをそれぞれ示しています。

ステップ 4 Life ドロップダウン リスト ボックスから、レポートの保管期間を 00 ~ 12 週の範囲で選択します。



ヒント レポートの保管期間に 00 を選択すると、レポートは生成されません。

ステップ 5 Update ボタンをクリックします。

Automatic Generation/Alert Option で生成間隔を Weekly に設定し、イネーブルにしたレポートは、毎週指定した時刻に自動的に生成され、指定した週数が経過すると削除されます。

変更内容は、午前 0 時に有効になります。変更内容をすぐに有効にするには、Control Center — Feature Services ウィンドウで CAR Scheduler サービスを一旦停止し再起動します。



ヒント デフォルト値に戻すには、Restore Defaults ボタンをクリックします。デフォルトでは、週報は毎週日曜日の午前 4 時に実行され、4 週間後に消去されます。

追加情報

P.3-19 の「関連トピック」を参照してください。

月次報告のスケジューリング

月次報告スケジューラでは、CAR 月次報告の実行日時と保管期間をスケジューリングします。



(注)

レポートの生成により Cisco Unified CallManager のパフォーマンスが低下することがあります。パフォーマンスへの影響が最小となる時間帯にレポートの生成をスケジュールしてください。

始める前に

Automatic Generation/Alert Option を使用して、生成するレポートを指定します。詳細については、P.4-8 の「レポートの自動生成と警告の設定」を参照してください。

この項では、自動月次報告の実行日時と保管期間をスケジューリングする方法について説明します。

手順

ステップ 1 System > Scheduler > Monthly を選択します。

Monthly Scheduler ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 Monthly Bill Generation 行にある Day of Month ドロップダウン リスト ボックスから、レポートを生成する日付を選択します。

この値を、特定の月に発生しない日付 (29、30、31 など) に設定した場合、レポートは当該の月の末日に生成されます。

ステップ 3 Monthly Bill Generation 行にある Time ドロップダウン リスト ボックスから、レポートを生成する時刻 (時間と分) を選択します。

24 時間制で時間を表わします。つまり、0 は午前 0 時、1 ~ 11 は午前の該当する時間、12 ~ 23 は午後 1 時から 11 時までをそれぞれ示しています。

ステップ 4 Monthly Bill Generation 行にある Life ドロップダウン リスト ボックスから、レポートの保管期間を 00 ~ 12 か月の範囲で選択します。



ヒント

00 を選択すると、レポートは生成されません。

ステップ 5 Other Monthly Reports 行にある Day of Month ドロップダウン リスト ボックスから、レポートを生成する日付を選択します。

この値を、特定の月に発生しない日付 (29、30、31 など) に設定した場合、レポートは当該の月の末日に生成されます。

ステップ 6 Other Monthly Reports 行にある Time ドロップダウン リスト ボックスから、レポートを生成する時刻（時間と分）を選択します。

24 時間制で時間を表わします。つまり、0 は午前 0 時、1 ~ 11 は午前の該当する時間、12 ~ 23 は午後 1 時から 11 時までをそれぞれ示しています。

ステップ 7 Other Monthly Reports 行にある Life ドロップダウン リスト ボックスから、レポートの保管期間を 00 ~ 12 か月の範囲で選択します。



ヒント 00 を選択すると、レポートは生成されません。

ステップ 8 Update ボタンをクリックします。

Automatic Generation/Alert Option で生成間隔を Monthly に設定し、イネーブルにしたレポートは、毎月指定した時刻に自動的に生成され、指定した月数が経過すると削除されます。

変更内容は、午前 0 時に有効になります。変更内容をすぐに有効にするには、Control Center – Feature Services ウィンドウで CAR Scheduler サービスを一旦停止し再起動します。



ヒント デフォルト値に戻すには、Restore Defaults ボタンをクリックします。デフォルトでは、月次請求書レポートは毎月 1 日の午前 3 時に実行され、2 か月後に消去されます。その他の月次報告は、毎月 1 日の午前 2 時に実行され、2 か月後に消去されます。

追加情報

P.3-19 の「関連トピック」を参照してください。

システム データベースの設定

CAR では、CAR データベースのサイズが最大レコード数の何 % を超えたときに、通知するように設定できます。メッセージと最大レコード数を設定し、警告を発行する割合 (%) を指定できます。

CAR データベースのサイズが、最高水準点と最低水準点の間で維持されるようにシステムを設定できます。これらの値は、**Configure Automatic Database Purge** ウィンドウで設定します。データベースのサイズが最低水準点に達すると、ユーザに警告が送信されます。データベースのサイズが最高水準点に達すると、削除の存続時間に基づいてレコードが削除され、電子メールが送信されます。

システム データベースの情報を設定するには、次の各項を参照してください。

- 手動での CAR データベースの消去とリロード (P.3-14)
- 自動データベース消去の設定 (P.3-15)
- システム ログ画面 (P.3-17)

手動での CAR データベースの消去とリロード

この項では、選択したレコードを CAR データベースから手動で消去する方法、およびすべての CAR データを削除して、データベースに新しい CAR データをリロードする方法について説明します。ダイヤルプランのアップデート、ユーザとデバイスとのアソシエーションの変更、コール レートの変更などの後に、データベースをリロードしてコールを分類し直す必要が生じることがあります。

手順

ステップ 1 **System** > **Database** > **Manual Purge** を選択します。

Manual Database Purge ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次の操作のいずれかを選択します。

- 既存の CAR データを削除して CAR データベースをリロードするには、**Reload All Call Detail Records** ボタンをクリックします。

レコードの削除によって、システムのパフォーマンスに影響が及ぶ場合があることを通知するメッセージが表示されます。リロードプロセスを続行するには、**OK** をクリックします。

5 分以内に CAR データベースへの CDR のロードが開始され、最大で 6 時間継続されます。リロードの進捗状況を監視するには、P.3-17 の「イベント ログの生成」の説明に従って、CDR Load イベント ログを生成します。

システムに新しいレコードがロードされた後は、P.3-8 の「CDR のロード スケジュールの設定」で設定したスケジュールに従ってレコードがロードされます。デフォルトでは、CDR データは毎日午前 0 時から午前 5 時までロードされます。

- 選択した CAR レコードを手動で消去するには、**ステップ 3** に進みます。

ステップ 3 **Select Table** フィールドで、データベース内の消去の対象になるテーブルを選択します。

手動消去が許可されているテーブル、テーブルに含まれているレコードの合計数、テーブルに含まれている最新および最古のレコードを表示するには、**Table Information** ボタンをクリックします。

Table Information ウィンドウが表示されます。Manual Database Purge ウィンドウに戻るには、**Close** ボタンをクリックします。

ステップ 4 Delete Records フィールドで、次のいずれかのオプション ボタンをクリックして、消去対象のレコードを特定するための日付を選択します。

- Older than
- Between

削除する CAR レコードの日付範囲を選択します。

ステップ 5 指定した日付より古いレコード、または指定した日付範囲に含まれているレコードをすべて削除するには、**Purge** ボタンをクリックします。

プロンプトに、指定したレコードを完全に削除しようとしていることが示されます。

ステップ 6 レコードを消去するには、**OK** ボタンをクリックします。消去操作を取り消すには、**[キャンセル]** ボタンをクリックします。

OK をクリックすると、選択したテーブルからレコードが消去されます。レコードが正常に削除されると、テーブルから削除されたレコードの数がステータス メッセージに示されます。

追加情報

P.3-19 の「関連トピック」を参照してください。

自動データベース消去の設定

この項では、CAR データベースの自動消去をスケジューリングおよびディセーブルにする方法について説明します。デフォルトでは、データベースの自動消去がイネーブルになっています。

手順

ステップ 1 **System > Database > Configure Automatic Purge** を選択します。

Configure Automatic Database Purge ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 自動消去をイネーブルにする場合は、**Disable CAR Purge** チェックボックスがオフになっていることを確認します。



(注) 自動消去をディセーブルにする場合は、**Disable CAR Purge** チェックボックスをオンにします。

ステップ 3 Low Water Mark ドロップダウン リストボックスから、6 GB の CAR データベースのうち、システムが CAR データに使用する割合の下限値 (%) を選択します。データベースのサイズがこの水準に達すると、CAR ファイルの消去が停止します。



ヒント CAR データベースのサイズが最低水準点に達した場合、システムが通知します。電子メール警告の設定については、P.4-10 の「電子メールによる警告のイネーブル化とディセーブル化」を参照してください。

ステップ 4 High Water Mark ドロップダウンリストボックスから、6 GB の CAR データベースのうち、システムが CAR データに使用する割合の上限値 (%) を選択します。データベースのサイズがこの水準を超えると、CAR ファイルの消去が開始されます。

ステップ 5 Automatic Database Purge 領域にある Delete CAR Records older than フィールドに、データベースから消去する CAR レコードの保管期間を日数で入力します。データベースのサイズが最高水準点に達すると、指定した日数よりも古いレコードが削除されます。

ステップ 6 Update ボタンをクリックします。

変更内容は、午前 0 時に有効になります。変更内容をすぐに有効にするには、Cisco CAR Scheduler サービスを再起動します。

CAR Scheduler は、この手順で設定された最低水準点と最高水準点を毎日確認し、データベースのサイズが最高水準点に達した場合は、指定された保管期間に基づいてレコードを削除します。削除が発生するのは、P.3-10 の「日報のスケジューリング」で説明したように、日報の生成が設定されている時刻と同時です。CAR は、CDR をロードする前に、指定された保管期間に基づいてレコードを削除します。



(注) このウィンドウにあるフィールドの値をデフォルトに戻すには、**Restore Defaults** ボタンをクリックします。デフォルトでは、自動消去がイネーブルになっています。

追加情報

P.3-19 の「関連トピック」を参照してください。

システム ログ画面

CAR は、さまざまなアクティビティのステータスを追跡できるログを提供します。CAR Scheduler が開始するイベント、たとえば、自動生成レポート、CDR のロード、レポート削除、データベースの内容消去などが、イベント ログによって追跡されます。

追加情報

P.3-19 の「関連トピック」を参照してください。

イベント ログの生成

イベント ログは、CAR Scheduler が制御するアクティビティのステータスについて、レポートを提供します。イベント ログ レポートには、タスクが開始されたかどうか、正常に完了したかどうか、進行中であるかどうかを示されます。

この項では、イベント ログ レポートを生成する方法について説明します。

手順

ステップ 1 System > Log Screens > Event Log を選択します。

Event Log ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 毎日 1 回実行されるジョブを選択するには、**Daily** オプション ボタンをクリックします。週 1 回実行されるジョブを選択するには、**Weekly** オプション ボタンをクリックします。月 1 回実行されるジョブを選択するには、**Monthly** オプション ボタンをクリックします。

ステップ 3 List of Jobs 領域で、情報を取得するタスクを選択します。

ステップ 4 選択したタスクを Selected Jobs 領域に追加するには、右矢印アイコンをクリックします。

ステップ 5 Selected Jobs 領域からタスクを削除するには、削除するタスクを選択し、左矢印アイコンをクリックします。

ステップ 6 実行頻度の異なるタスクを追加するには、**ステップ 2** ~ **ステップ 4** を繰り返します。たとえば、日報と、月 1 回または週 1 回のタスクを含んだレポートを一緒に指定することができます。

ステップ 7 レポートに含めるステータスを選択します。表 3-5 の説明に従って、ステータスを少なくとも 1 つ 選択する必要があります。



(注) システムのデフォルトでは、すべてのジョブ ステータスが選択されています。

表 3-5 イベント ログ レポートのステータス

ステータス	説明
Completed	このチェックボックスをオンにすると、完了したタスクがイベント ログ レポートに記録されます。
In Progress	このチェックボックスをオンにすると、処理中のタスクがイベント ログ レポートに記録されます。
Unsuccessful	このチェックボックスをオンにすると、失敗したタスクがイベント ログ レポートに記録されます。

ステップ 8 From と To の値を選択して、日付範囲を選択します。

ステップ 9 イベント ログ レポートを生成するには、**OK** ボタンをクリックします。

イベント ログ に、選択したタスクに関する情報が表示されます。

表 3-6 で、イベント ログ レポートの出力について説明します。

表 3-6 イベント ログ レポートの出力パラメータ

パラメータ	説明
SI No	シリアル番号
Jobs	タスクの名前
Start Time	タスクが開始された時刻
End Time	タスクが終了した時刻
Status	失敗、処理中、完了のいずれか
Date	タスクがスケジューリングされた日付

ステップ 10 画面を右クリックし、[印刷] を選択して、ログを印刷します。

追加情報

P.3-19 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

関連トピック

- [メールサーバのパラメータの設定 \(P.3-2\)](#)
- [ダイヤルプランの設定 \(P.3-3\)](#)
- [CAR ダイヤルプランのデフォルト値の復元 \(P.3-4\)](#)
- [CDR のロードスケジュールの設定 \(P.3-8\)](#)
- [日報のスケジューリング \(P.3-10\)](#)
- [週報のスケジューリング \(P.3-11\)](#)
- [月次報告のスケジューリング \(P.3-12\)](#)
- [システムデータベースの設定 \(P.3-14\)](#)
- [自動データベース消去の設定 \(P.3-15\)](#)
- [システムログ画面 \(P.3-17\)](#)
- [イベントログの生成 \(P.3-17\)](#)
- [レポートの自動生成と警告の設定 \(P.4-8\)](#)
- [通知限度の設定 \(P.4-11\)](#)
- [ゲートウェイ別 QoS の設定 \(P.6-6\)](#)
- [ゲートウェイ詳細レポートの設定 \(P.7-2\)](#)
- [ゲートウェイ要約レポートの設定 \(P.7-4\)](#)
- [ゲートウェイ使用状況レポートの設定 \(P.7-6\)](#)

■ 関連トピック